

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 富山市立古沢小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒930-0151  
富山県富山市古沢501  
E-mail furusawasho@city.toyama.lg.jp  
Website http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama040  
幼児児童生徒数 男子 20名 女子 23名 合計 43名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「美しい心と学ぶ喜びをもち、たくましく生きる子供の育成」を学校教育目標としている。ESDを教育目標の具現化の一環として捉え、ESDの実践を通して、他者と協力する態度やコミュニケーションを行う力の育成を目指した。

具体的には、「かかわり」と「つながり」を柱に、①地域にかかわる学習、②環境にかかわる学習、③福祉にかかわる学習、④国際理解にかかわる学習を行った。

#### ① 地域にかかわる学習

1年生は、地域の長寿会の方からコマ回しやけん玉等、昔の遊びを教えて頂き、お年寄りと交流した。また、保育所年長児を招待し、小学校のことを紹介したり、お年寄りから教わった昔の遊びを教えたりする集会を行った。

2年生は、近隣の自然体験施設での飼育体験を通して、生き物の命を感じながら動物と触れ合った。飼育員へのインタビューや仕事の様子から、飼育員の動物に対する思いに気付いたり、仕事の工夫を見付けたりした。

3年生は自分たちの住む地域の宝物として、地域の川に生息するホタルやホクリクサンショウウオについて調べた。飼育活動を通して分かったことや感じたことをまとめ、全校児童や保護者、地域の方々に、「地域のよさ」を発信した。

②環境にかかわる学習

4年生は、身近にある里山に四季を通じて出かけ、生息する動植物の観察をしたり、自然体験施設や環境保全団体の方から話を聞いたりした。竹の伐採作業体験を通して、里山の保護について考え、環境保全のボランティア活動への参加を「ESD富山シンポジウム」で呼びかけた。

③福祉にかかわる学習、

5年生は、通所介護施設を訪問し、高齢者と折り紙やゲームをしたり、歌ったりして交流した。相手の立場に立って次回の活動内容を考えるなど、よりよい関係づくりに努め、触れ合いの輪を広げた。

④国際理解にかかわる学習

6年生は、社会科や外国語活動の学習と関連付けて、世界の国々の歴史や文化について、インターネットや本を活用して調べた。国による生活や文化の違い気付くとともに、食糧危機や貧困に目を向け、自分たちにできることを考えた。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材

Yahoo きっず

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

生活科や総合的な学習の時間にユネスコスクールとしての活動を位置付けた年間指導計画を作成し、時数を確保している。活動を進めるに当たり、問題解決型の学習過程を重視している。また、新年度に向けて、学年末に課題と成果を明らかにして改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

各学年の生活科や総合的な学習の時間における、今年度のテーマや単元のねらい、主な学習活動、指導時数を明記した年間指導計画を作成している。学年末に加除修正を加えて新年度の計画を立てることで、教員の異動等があっても、教育活動の継続性を保つことができるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校活動の評価は、特に行っていない。複式学級が増えるため、活動内容の見直しが必要である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

富山県内のユネスコスクールが活動の成果を発表する「ESD富山シンポジウム」において、里山のよさを紹介し、環境保全のためのボランティア活動への参加を呼びかけた。自分たちの活動を認められたことに喜びを感じ、自信につながった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

3・4年生の里山の学習では、自然体験施設の方に解説をして頂き、環境保全団体の竹伐採のボランティア活動にも参加している。また、大学コンソーシアム石川、富山ESD講座委員会主催の「ESDシンポジウム」に、3・4年生が参加し、実践発表を行っている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

児童は「ESD富山シンポジウム」に参加し、自校の取組を発信するとともに、他校の発表を見聞し、質疑応答することを通して、交流を深めている。また、教員が県内のユネスコスクールの公開授業研修会に参加し、見聞を広めている。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

小規模校であるために、多様な考えに触れる機会や発信の場が限られていることが課題である。「ESD富山シンポジウム」のような場は、児童が自分の思いを発信し、多様な考えに触れるよい機会となっている。

(3) 平成30年度の活動計画

平成30年度から複式学級が二つになる。教員が減少し、二つの学年が合同で学習活動を展開する必要がある。今年度までの指導計画を見直し、各学年のねらいを踏まえつつ、効果的な学習活動を検討している。概ね、「地域」「環境」「国際理解」等をテーマに取り組む予定である。